

国の大きさを示す指標として、少し前までは国内総生産（GDP）という指標を使うことが通常であったが、最近ではGNI（国民総所得）という指標がよく使われる。この指標の利用の仕方の変化は、日本が進めようとしている成長戦略と深い関わりがあることを理解する必要がある。

GDPとは日本国内で生み出された付加価値の総額のことである。これに対して、GNIとは日本の国民が利用できる付加価値の総額のことである。だから「所得」という表現が使われている。

日本のGNIの伸び率（成長率）は、GDPの成



伊藤元重の

## ニュースな見方

長率、すなわち国内生産の輸入できなかったのかを示した数値だ。

成長率に加えて、海外から入ってくる投資収益（出ていくものとの差のネットの数値）の伸び率と、交易条件の伸び率を加えたものである。日本国民がどれだけ消費や投資などの支出に使えるのかは、国内生産だけでなく、海外からの投資収益

と交易条件が重要になる。投資収益については説明するまでもないだろうが、

取引条件とは海外に対してだけ高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

買ってきたか、海外に比べて高い価格で売ったのか、そしてどれだけ安く

\*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。

# 積極的な貿易自由化必要

高資産を持つている。それにもかかわらずその収益率は必ずしも高くない。金融資産をもっと有効に活用する必要があるのである。

日本の海外資産の内訳を見ると、海外の国債など、収益率が低いものが多い。見ると、海外の国債など、収益率が低いものが多い。

リスクを避けた投資の結果、とも言えるかもしれない。リスクを避けた投資の結果、とも言えるかもしれない。

直接投資やリスク資産投資などで海外から高い投資収益を稼いでいる米国内には大きく見劣りがする。年金運用などで、リスクをとっても、よりリターンを

高めるには、資源やエネルギーをより低コストで調達することを真剣に考えなくてはならない。海外の資源開

発に積極的に投資し、そして輸出で高い付加価値を稼ぐという点でも、グローバル化の推進が鍵となる。一方では、自動車や家電のよ

うな産業はより積極的に海外展開をしてグローバル・チャンネルリーダーの地位の強化を進めるとともに、国内から輸出する製品については差別化を進め、高い付

加価値を稼げるようにすることだ。積極的にグローバル化・自由化を進めることなしには、こうした付加価値拡大は難しい。

（東大大学院 経済学研究科教授）

### 「国民総所得」拡大の条件